



校報 あずまね

<https://shiwa3.chu.jp>

時間啄啐

文責 佐藤 智一

2 学期終業式～merry christmas and happy new year!



2 学期の 5 ヶ月間で、皆さんの心にどんなことが残っているでしょうか？ 始業式の日にお話した「伝え合い、響き合い、高め合うこと」、そして「誰一人取り残さないチーム」をつくることが出来たでしょうか？何事も口で言うだけなら簡単ですが、実行するのはむずかしいものです。それでも、一度口にしたことを簡単にあきらめてはならないと思います。

そういった意味で私は、NHKのW杯サッカーテーマソングで King Gnu が歌った Stardom の歌詞、「あと一歩 ここからあと一歩 ココロが草臥くたびれた足を走らせる」というフレーズが心に残っています。この歌は、矢継ぎ早に行事が続いた 2 学期後半、いつも私の心に響いていました。10 月末の 60 周年事業から 11 月の授業参観、学校公開研究会、地区と県の中文祭、12 月の木工コンクール締切、それに日野市への訪問が重なり、まさに怒涛の日々でした。その中で、「あと一歩 ここからあと一歩」と自分を奮い立たせるような言葉は、私たちの物事に取り組む姿を象徴していたように思います。どんなに大変でも、目の前のやるべきことから逃げないこと。投げ出さないこと。それが心を鍛え、自分たちを成長させるのだと思います。

しかし、サッカー日本代表のように、どんなに頑張っても求めていた結果が得られない時だってあります。その悔しさを糧に「次こそは」と強く思わずして、それまでとは違う未来を創り出すことは出来ないでしょう。だからもう直ぐやってくる新しい年を迎える前に、今年の経験をもとに「来年、これだけは」と心に決めて取り組むことをつくって欲しいと思います。今年が終わろうとしている今、私たちが考えないといけないのは、もう過ぎたことにこだわるよりは、未来を見ることです。「自分は何をどうしたいかを言えること。」「それを果たすためのプランを持つこと。」「そしてそれをやり続けること。」「皆さんには、そんな冬を過ごして欲しいと思います。

年の瀬に、行く年を振り返り、来る年を思うのは、子どもも大人も同じです。素直にお世話になったことに感謝し、「良いお年を」と願う気持ちが、幸運を呼び寄せるのではないかと思います。世界では今も戦禍に怯える人々がいます。冬休みも、何より、命と、人の心のつながりを大事にして過ごしてください。そして、3 学期に無事に始業式を迎えられ、みなさんの元気な姿に再会できることを切に願って、2 学期を閉じることにします。